

マックエンジニアリング

超小型プラントラボ整備

精密部品製造のマックエンジニアリング（倉敷市玉島乙島）は、化学薬品の開発に用いる手のひらサイズの超小型プラント「マイクロリアクター」の研究実験ラボを本社内に設けた。導入を検討している企業に製品や試験機器などを貸し出し、性能を直接確かめてもらう狙い。知名度の向上と販路増につなげる。（太田知二）



マックエンジニアリングが開設したマイクロリアクターの研究ラボ



マックエンジニアリングが製造するマイクロリアクター

マイクロリアクターは、マイクロメートル（1ミリは千分の1）単位の狭い空間で複数の液状薬剤を化学反応させる装置。試験管やミキサーに比べて少量の原料で効率的に実験でき、開発コストを低減できる上、危険性も低いため、企業や研究機関で活用が広がっている。

ラボは本社工場2階の倉庫スペース（約50平方メートル）を改装して整備。マイクロリアクターの実機（縦6センチ、横4センチ、高さ2・3センチ）と、プラント本体に薬剤を送るポンプ、液体の

本社内 性能確認へ開放

流れを観察する高速自動カメラ、3次元測定器、ガスの充満を防ぐ装置を備えている。

利用を希望する企業や大学、研究機関に開放するほか、ラボを拠点に共同研究も行う計画。期間や賃料などは相談に応じる。投資額は約1千万円。

マイクロリアクターは実験の目的ごとに設計するオーダーメイドが主流だが、同社は多目的に使用して安価な規格品を2014年に開発。薬剤の流路を刻んだプレート状の部品を交換すれば混ぜ方や反応時間を変えられる仕組みで、価格を従来の半分程度の20万〜30万円に抑えている。

展示会などでPRし、これまでに大手化学や化粧品メーカー、印刷会社などに約30台を販売。首都圏が中心だったが、中西四国エリアを中心に地方企業にもPRしようというラボを新設した。

マックエンジニアリングは金型や産業機械部品の加工がメイン。マイクロリアクターを今後の主力事業に位置付けており、3年後に年間1億円の売り上げを目指す。小谷功会長は「新しい技術だけに、性能を確かめたいという声企業がから多く寄せられている。使い勝手の良さなど利点を伝え需要を掘り起こしたい」と話している。

同社は1981年設立、資本金2600万円、売上高約2億円（16年12月期）、従業員18人。

岡山県産材の利用で意見交換

県木材需要
拡大推進会議

岡山県や林業・建築関係団体などをつくる

「県木材需要拡大推進会議」の本年度会合が5日、岡山県庁で開かれ、県が5月に策定した県産材利用促進指針（2017〜21年度）について意見交換し



岡山県産材の活用について話し合った県木材需要拡大推進会議

た。

委員13人の公共県産材を全増やすと踏まえ、県産材の活用施策を建築物に生産されるの新建材（集成板）を示した。委員からはコストが限られる。CLT開発だ」「県産は、人材は、木造建築増やす必要といった意見。会議は、県は委員の反映する

情報ファイル

シニア層対象
安全運転講座

岡山ダイハツ販売（岡山市北区野田）は5日、

